

2019 年度

事 業 報 告 書

2019 年 4 月 1 日から  
2020 年 3 月 31 日まで

学校法人 大阪初芝学園

2020年5月26日

学校法人大阪初芝学園

## 事業報告書

私立学校法第47条に基づく2019年度の本法人の事業報告書は以下のとおりです。

### 1 法人の概要

#### (1) 建学の精神と学園の理念

昭和12年4月、大阪初芝学園は、大阪初芝商業学校の設立にあたり、校訓を「誠実剛毅」、校則を「剛健なる体力の練磨、勤勉の良風の養成、自治精神の発揮、責任観念の顕現、謙讓の美德の涵養」と定め、学校教育を通して社会に貢献する教育活動の推進に努力しています。

更に、平成22年12月、「夢と高い志、挑戦、そして未来創造」を学園の理念と定め、世界で活躍する創造的な人材の育成を目指し、その具現化のため「2023基本構想」を策定し、学園の教育環境と教育活動の一層の充実に努めています。

#### (2) 学校法人の沿革

昭和12年	1月20日	財団法人大阪初芝学園の設立申請。
同	4月30日	財団法人大阪初芝学園設立に係る大阪初芝商業学校設立(文部大臣より許可)。
同 23年	4月 2日	学制改革により新制高等学校発足。校名を初芝高等学校(普通科・商業科)とする。
同 26年	3月 8日	財団法人から学校法人に組織変更。
同 28年	4月 1日	初芝高等学校附属幼稚園開園。
同 57年	8月31日	初芝高等学校附属幼稚園スイミングスクール開校。
同 59年	4月 1日	初芝高等学校富田林分校開校。
同 60年	4月 1日	初芝高等学校富田林分校を初芝富田林高等学校と名称変更。 初芝富田林中学校開校。
平成 3年	4月 1日	初芝橋本高等学校開校。
同 7年	4月 1日	初芝橋本中学校開校。
同 10年	4月 1日	初芝中学校開校。
同 13年	9月 1日	初芝中学校を狭山登美丘学舎へ移転。
同 15年	4月 1日	はつしば学園小学校開校。
同	9月 1日	初芝中学校を初芝堺中学校と名称変更。
同 20年	7月22日	学校法人立命館と教学提携。
同 21年	4月 1日	初芝高等学校を初芝立命館高等学校と名称変更。 初芝堺中学校を初芝立命館中学校と名称変更。 初芝高等学校附属幼稚園をはつしば学園幼稚園と名称変更。
同 23年	4月 1日	初芝立命館高等学校、法人事務局を北野田キャンパス(狭山登美丘学舎)へ移転。

(3) 設置する学校、学科等

設置する学校	開校年月	学科等	摘要
初芝立命館高等学校	昭和 12 年 4 月	全日制 (普通科、体育科)	
初芝富田林高等学校	昭和 59 年 4 月	全日制 (普通科)	
初芝橋本高等学校	平成 3 年 4 月	全日制 (普通科、国際科*1、体育科*2)	
初芝富田林中学校	昭和 60 年 4 月		
初芝橋本中学校	平成 7 年 4 月		
初芝立命館中学校	平成 10 年 4 月		
はつしば学園小学校	平成 15 年 4 月		
はつしば学園幼稚園	昭和 28 年 4 月		

\*1 平成 24 年度から募集停止

\*2 平成 26 年度から募集停止

(4) 学校、学科等の生徒数等の状況

2019 年 5 月 1 日現在 単位：人

学校名		入学定員数	収容定員数	現員数	摘要
初芝立命館高等学校	普通科	440	1,320	980	
	体育科	40	120	117	
初芝富田林高等学校	普通科	360	1,080	919	
初芝橋本高等学校	普通科	225	675	493	
初芝立命館中学校		120	360	285	
初芝富田林中学校		120	360	258	
初芝橋本中学校		80	240	65	
はつしば学園小学校		140	840	520	
はつしば学園幼稚園		3 歳児 135 名 4 歳 5 歳児若干名	405	357	

## (5) 役員概要

2020年3月31日現在

定員数 理事 7名～17名、監事 2名

	区分	氏名		区分	氏名
1	理事長	森島 朋三	11	理事	加藤 武志
2	学園長	福永 正博	12	理事	上野 忠雄
3	副理事長	國廣 敏文	13	理事	小島 敏夫
4	常務理事	高橋 英幸	14	理事	澤田 宗和
5	常務理事	小畑 力人	15	理事	道上 達也
6	常務理事	川崎 昭治	16	理事	山下 洋一
7	理事	宮本 健二	17	理事	山本 信孝
8	理事	田端 明雄			
9	理事	平井 正朗	1	監事	岸田 眞美
10	理事	飯田 昌彦	2	監事	古林 茂

## (6) 評議員概要

2020年3月31日現在

定員数 評議員 16名～35名

	氏名		氏名		氏名
1	森島 朋三	13	小島 敏夫	25	山西 登
2	福永 正博	14	澤田 宗和	26	上里 昌輝
3	國廣 敏文	15	道上 達也	27	栗田 直樹
4	高橋 英幸	16	山下 洋一	28	小山 久子
5	小畑 力人	17	山本 信孝	29	東留 博孝
6	川崎 昭治	18	佐本 一晃	30	細野由紀子
7	宮本 健二	19	菖蒲 育弘	31	松本 明子
8	田端 明雄	20	竹谷 知子	32	安田 悦司
9	平井 正朗	21	西依恵一郎	33	藪内 靖郎
10	飯田 昌彦	22	岩橋 徹	34	指吸 明彦
11	加藤 武志	23	城野 靖	35	横澤 広久
12	上野 忠雄	24	高岡 隆真		

(7) 教職員の概要

2019年5月1日現在

区分		本部	初芝 立命館 中・高校	初芝 富田林 中・高校	初芝 橋本 中・高校	はつしば 学園 小学校	はつしば 学園 幼稚園	計
教 員	本務	2	67	61	37	28	18	213
	兼務	—	35	35	28	12	12	122
職 員	本務	6	4	3	3	2	1	19
	兼務	5	17	14	16	25	4	81

単位：人

※通年派遣者含む。

## 2 事業の概要

学園は、「夢と高い志、挑戦、そして未来創造」の学園理念のもと、①社会に貢献し世界で活躍する創造的な人材の育成、②生徒・児童・園児の学びと成長を大切にした学園・学校づくり、③初等中等教育及び幼児教育を担う「総合学園」として大阪・和歌山の地域に貢献すること、を目標とする2023基本構想・第2次中期計画を策定し、その実現に取り組んでいる。

### (1) 学園の取り組み

重点目標	具体的な取組内容
1. 2023基本構想・第2次中期計画の取り組み	・2023基本構想・第2次中期計画をさらに推し進めるとともに、新たな状況に対応するため、常任理事会のもとに「未来夢プロジェクト」を立ち上げた。様々な調査やヒアリング、議論を重ね、学園全体からの意見集約を行い、2020年2月理事会において中間報告をおこなった。
2. 学校法人立命館との連携強化	・学校法人立命館との提携協定書および出向協定書の更新
3. キャンパスの整備	・初芝富田林中学校・高等学校進入路のり面崩落箇所改修工事 ・北野田キャンパス4号館食堂改修工事
4. 教職員の質の向上と働き方改革の推進	・組織整備計画に基づく教員採用の実施 ・研修の実施 新任者研修（5月）、教職員合同研修会（8月） ・教員の働き方改革推進のための体制整備
5. 学園の管理・運営及び諸規程の整備	・給与規程の一部改正 ・寄附行為の一部改正 ・役員・評議員の報酬等に関する規程の制定

### (2) 各校園等の取り組み

#### ①初芝立命館中学校・高等学校

重点目標	具体的な取組内容
1. 立命館コースの特色化を図る高大連携教育の充実	
(1) 学力の向上 (2) 理系コースの新設 (3) 特色教育の充実 (4) 高大連携企画の実施 (5) 読書・文章作成能力	(1)セミナー型の授業・自主ゼミなどの実施・大学入学後の学びに対応した大学入学前指導の実施 (2)理系コースを新設し、立命館大学理工学部を中心とした理系学部へ優秀な人材を送るための生徒募集を行う (3)課題研究・立命館DAY・コース合宿などの実施 (4)平和についての連携企画・BKC研修・学生懇談企画などの実施 (5)月一新書・小論文指導・志望理由書講座などの実施 ※高3の到達度検証試験は希望者全員合格。立命館大学へ118名、立命館アジア太平洋大学へ2名が進学。
2. 生徒の多様な進路希望に応える進路指導体制の強化	
(1)進路指導体制強化 (2)国公立大学進学数向上 (3)学力推移の分析による学力向上	(1)迅速な情報共有と定期的な進路懇談の実施 (2)受験可能生徒への個別指導強化とセンター試験対策の強化 (3)模試分析と授業・進路企画との連携

方策の検討と進路指導スペシャリストの育成	校内進路指導研究会の充実と外部説明会の積極的な参加奨励 ※大学進学実績：国公立 9 名（阪大 1 名、都立 1 名）、関関同立 47 名（前年度 16 名）、産近甲龍 108 名（前年度 43 名）
3. 主体的に学ぶ学習者の育成を目指す教育方法の改善と教員研修の充実	
(1)ICT 活用 (2)新学指導要領対応 (3)授業改善・研修	(1)中学 1 年生のタブレット利用の場面拡大 (2)課題研究・地球市民・理科実験等の「探求」に向けての準備 (3)ねらいやテーマが明確な研究授業の実施
4. グローバル社会で活躍できる人材の育成を目指す英語教育・国際教育の充実	
(1)立命館コースでのイングリッシュキャンプ (EIC) (2)ネイティブ教員による授業と習熟度別授業 (3)留学生との交流 (4)海外研修プログラム促進	(1)中学から高校 1 年までの EIC の継続実施 (2)中 1 での 6 時間中 3 時間のネイティブ教員による授業展開 (3)留学生を活用した異文化理解や英語学習の取り組みの実施 ネイティブ教員を活用した国際プログラム 生徒募集における生徒との交流の促進 (4)中期留学の実施
5. 理系大学進学者の育成を目指す理科・数学教育の充実	
(1)理科教育プログラムによる授業改善 (2)国公立大学受験対応のカリキュラム実践 (3)立命館大学理系学部進学に対応した理科教育の充実	(1) 授業内容と実験との関連明確にした授業展開 (2) 基礎科目の 1 年で実施による国公立対策開始 (3) 物理・化学の全範囲をおさえ成績向上を図る
6. 生徒確保に向けた入学政策・入試業務の強化	
(1)女子生徒・理数系生徒の確保 (2)中学校・塾訪問強化と最新情報に基づいた業務推進 (3)入試方法と連動した広報活動 (4)データ分析と情報処理の効率化	(1) 傾斜配点を行い理系教科の得意な生徒を獲得する (2) 効果的な塾・学校への訪問 (3) 奨学金制度による学力層の高い生徒の確保と入試日程の工夫 (4) 過去データをもとに合格ラインなどの工夫 ※入学者数：中学 124 名（前年比+10）、高校 322 名（前年比+58）
7. その他	
(1)基本的な生活習慣の確立 (2)分掌機能の活性化	(1)朝の読書指導の徹底 (2)分掌からの提案重視

②初芝富田林中学校・高等学校

重点目標	具体的な取組内容
1. 進路指導体制の強化	
「進路満足度 100%」を目標とした大学合格実績に直結する進路指導の展開	<p>①Will-Frontier コースは中堅～難関までの国公立大学、未来創造コースは中堅国公立大学及び有名私大をターゲットとした。また、AO・推薦等も積極的に活用することとした。</p> <p>②考查分析会・模試分析会の実施③ 研修 [OJT と Off-JT] の推進</p> <p>④ 校内予備校 (オプション) の設置⑤ 小テストの5教科化</p> <p>⑥「出願検討会」の実施⑦「入学前先取り講座」の実施</p> <p>※卒業生数 327 名、大学・短大に約 9 割が進学。大学合格実績：国公立 86 名 (前年 76 名)、私立 953 名 (前年 690 名)、現役合格者数も共に 2 年連続増加。医歯薬系 72 名 (前年 37 名)、大阪府大+市大+教育大 24 名 (前年 18 名)、有名私大 (関関同立+産近甲龍) 377 名 (前年 300 名)、指定校推薦 84 名 (前年 50 名)。進路満足度 97% (前年 88%)</p>
2. カリキュラム・マネジメント	
(1) コース・コンセプト達成に向けた実証データに基づく体系的組織運営	<p>① 管理職会議・運営委員会の組織的運営：“教職協働”による校務推進</p> <p>② 委員会の新設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム・マネジメント委員会・グローバル教育推進委員会</li> <li>・理数教育推進委員会 ・ICT 教育推進委員会</li> <li>・探究推進委員会・校塾連携推進委員会</li> <li>・衛生委員会・生徒会発足準備委員会</li> </ul>
(2) 授業改善と教員の資質向上	<p>研究開発部による企画・実践</p> <p>① 研究授業、公開授業の実施② 機関紙の発行</p> <p>③ 授業評価、学校評価の実施④ 委託研究、資格取得の奨励</p>
3. 新学習指導要領に対応する教育実践	
(1) グローバル教育・探究教育・理数教育の実践と AI を活用した個別最適学習の定着	<p>① グローバル教育の実践 (4 技能 5 領域重視の英語教育実践)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外研修 (ロサンゼルス・オックスフォード) および国内研修 (APU)</li> <li>・ディベート講座・オンライン英会話授業の実践</li> <li>・English Room の新設</li> </ul> <p>② 探究教育：中 2～高 2：総合学習にて実施 (教科横断的アプローチ)</p> <p>③ 理数教育：「実験教室」「数学クラブ」「AI 教材による ICT 化」(理数探究的アプローチ)</p>
4. 入試広報戦略の強化	
(1) エンロールメント・マネジメントへの基盤づくりと校塾連携	<p>①学習塾訪問、中学校訪問と受験者数増加に結びつく地道な渉外活動 (マーケット・リサーチに基づくコース・コンセプトに合う生徒確保)</p> <p>② オープンスクール、入試説明会、プレテスト等のイベント運営</p> <p>※入学者数：中学 125 名 (前年比+46)、高校 275 名 (前年比+12)</p>

③初芝橋本中学校・高等学校

重点目標	具体的な取組内容
1. 豊かな行事と学校生活の充実	
学校行事の充実と安全・安心な学校生活を送れるための環境整備	(1) 生徒主体の「若葉祭」・「体育祭」の運営 (2) クラブ活動の活性化 ・重点クラブの競技力向上 ・スポーツ専攻対象としたアスリート研修の実施 ※全国大会出場クラブ：ゴルフ、サッカー、柔道、テニス、なぎなた (3) 通学の利便性の向上 (4) 寮の環境整備
2 確かな学力の養成と進学実績の向上	
基礎・基本の徹底および主体的に学習に取り組む意欲を持つ生徒の育成	(1) 進学プロジェクトの充実 (2) 大学受験に向けた意識向上のための企画の推進 中学) 夏季プログラム、先輩の話を聞く会、コンクール参加 高1) 進路講演会、大学見学会、スタディサプリ 高2) 夢ナビ、大学別説明会、進路講演会、スポーツ専攻進学説明会 (3) 立命館との提携強化 ・3年間のプログラムの完成 ・「ライスボールセミナー」実施 ・R コースの学力向上 (4) 新学習指導要録への対応 ・探究学習の実施 (高1・中学) ・プログラミング教育 (中学) ※大学進学実績：国公立大学6名、関関同立28名、産近甲龍30名 ※高3立命館コース23名中、立命館大学へ21名、立命館アジア太平洋大学へ2名が進学
3. 国際社会に貢献できる生徒の育成	
国際社会への意識向上のための取り組みの実施と4技能を備えた高い英語力の育成	(1) 英語圏への修学旅行 中3) ロサンゼルス、高2) グアム (2) 語学研修・短期留学の充実 (3) 4技能を備えた英語力の育成
4. 地域連携・交流と生徒募集の推進	
地域に根ざした魅力ある学校づくり、および生徒募集の推進	(1) 地域行事への参加、協力 ・高野山参詣登山、橋本マラソンへの参加 ・クラブによる地域行事の参加・協力 (2) 地域への奉仕 ・運動部による日々の地域清掃等 (3) 定員充足に向けた募集活動 ・プレテスト、学校見学会、入試説明等の行事の充実 ・塾訪問、中学校訪問の強化 ※入学者数：中学23名(前年比+1)、高校129名(前年比-33)

④はつしば学園小学校

重点目標	具体的な取組内容
1. 幅広い進路選択を可能にする確かな学力の養成	
(1) 学力推移データ等に基づく現状分析と課題の整理 (2) 授業内容の改善・充実 (3) 進路指導体制の再編 (4) 内部中学校と連携した学力検証の仕組みづくり	(1) 到達度テストの学年別現状分析・課題の継続検証 (2) 校内研の充実 (3) 習熟度別学習(高学年)の課題整理 (4) 内部中学校のプレテストや入試問題の研究 ※内部中学進学者数：卒業生 89 名中 42 名、47.2% ※外部中学合格者数：灘 1、清風南海 19、東大寺 2、西大和 4、大阪星光 2、四天王寺 8、海陽 1、大阪桐蔭 1、奈良帝塚山 1 名
2. 社会の変化に柔軟に対応できる力の養成	
(1) 「グループ・ペア学習」の深化 (2) 宿泊体験学習の充実 (3) プログラミング学習の実践	(1) 学年研、教科研の計画実施 (2) 宿泊活動実施後の検証・改善 (3) プログラミング教育実施に向けての実践と研修及び内容検討 (4) 新任教員の研修と実践研究
3. 豊かな心の育成	
(1) あたり前のことをあたり前にする心の育成 (2) 児童支援体制の整備	(1) 道徳部会を核とした授業実践研究、評価のあり方検討 (2) 教育相談体制の充実
4. 英語教育の充実	
(1) 英語教科化を踏まえた指導目標・学習内容の体系化 (2) 授業の充実 (3) 上位層を伸ばす仕組み作り (4) 英語力検証システムの構築	(1) 4 技能をバランスよく育成する英語教育を目指す (2) 新教材「GrapeSEED」の実践と検証 (3) 校内国際交流プログラムの充実 (4) 英語力の検証システムの構築
5. はつしばサイエンスの充実・深化	
(1) 理科に関心を持つ心の育成	・ 中学受験に対応した学習支援（6 年） ・ 学校評価アンケートの上昇 ・ 理科担当教員の授業力向上 ・ 「はつしばサイエンス」の見直し ・ 校内到達度テストの検証、得点力向上
6. 支持基盤の確立	
(1) 「成人の集い」の継続 (2) 卒業生への連携強化 (3) 保護者会との連携と支援体制の強化	・ 「第 4 回成人の集い」の継続開催 ・ 卒業生交流サイトの構築と活用の検討 ・ 卒業生の進学並びに進学後の追跡調査 ・ 「おやじの会」の継続並びに連携強化
7. 安定した学校運営	
(1) 募集定員の確保 ・ 訪問地域・訪問幼児教室等の重点化 ・ 募集行事や外部説明会の参加者数増加	・ 松原市、和泉市への働きかけ強化並びに近隣市町村の訪問の重点化 ・ 幼児教室との連携強化 ・ 外部での説明会の内容検討及び校内説明会等への誘導強化 ・ 校内説明会の内容の工夫と目的の明確化 ・ 説明会の参加について WEB 申込みシステムの導入

・ 広報活動の積極的展開	・ 学校案内のリニューアル ・ はつしば学園幼稚園との連携強化 ※入学者数：90名（前年比+2名）
--------------	---

### ⑤はつしば学園幼稚園

重点目標	具体的な取組内容
1. 保育の質の向上と教育内容の充実	
(1) 正課授業の充実 (2) 課外教室の充実 (3) 教員の保育力量の向上	(1) 幼稚園行事・特色教育の充実 (2) 小学校で採用されている Grape SEED による課外教室を新設 次年度にむけて国際コース（年中・年長）、プレ国際コース（年小）を新設し、正課授業においても導入 (3) 職員会議・学年会議を活用した情報共有 園内研修や外部研修への積極的参加 子育て相談員や幼児教育アドバイザーの育成
2. 園児募集	
(1) 募集関連行事の充実 (2) はつしば学園小学校との連携強化 (3) 広報の充実	(1) 未就園児教室の実施（英会話・リトミック・体操等） 園庭開放の実施 (2) 小学校の教員による知育教室、交流会の実施 小学校で採用されている Grape SEED による連携強化 (3) ホームページの充実 ※入園者数（年少）：114名（前年比-2）
3. その他	
(1) 保護者への連絡ツールの導入 (2) 預かり保育の充実	(1) 園児管理システムの導入 (2) ホームページ保護者サイトの充実 (3) 就労家庭の保護者のニーズに応える預かり保育の実施

### ⑥初芝スイミングスクール

重点目標	具体的な取組内容
1. 全国・世界レベルで活躍できる選手の育成	・ 選手コース生の育成 国際レベル級1名、日本レベル級4名、全国レベル級7名が当スクールに在籍
2. 会員数の増	・ 会員獲得および継続してもらうための行事の実施 定期コース会員対象の遠足(春・秋)、クリスマス会、進級滞留者レッスン、夏・春休み短期教室、春・秋・冬＝（今年度、初）1ヶ月体験教室、特別練習会、はつしば学園幼稚園・菩提幼稚園授業を実施 2019年度月平均会員数1,044名（過去最高であった2018年度と同数。）

3. 学园内各校園との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はつしば学園幼稚園との連携 体育授業の一環でスイミング授業を行い、預かり保育・延長保育の中でスイミングスクールの授業も受けさせ知育、徳育、体育授業のサポートを実施</li> <li>・初芝立命館高校との連携 体育科を含む生徒募集、水泳部の発展、強化のサポートを実施</li> </ul>
4. 施設設備の充実	・スイミングスクール改修工事計画

(4) 施設等の状況

2020年3月31日現在

主な施設設備の状況は次のとおりである。

面積：㎡ 金額：千円

所在地	施設等	面積等	取得価額	帳簿価額	摘要
堺市東区日置荘西町 (はつしば学園幼稚園)	園地	4,282	139,459	139,459	
	園舎	2,406	374,216	148,127	
同上 (初芝スイミングスクール)	土地	1,518	28,868	28,868	
	建物	1,304	223,234	22,798	
堺市東区西野 (北野田キャンパス)	校地	48,523	2,916,279	2,916,279	はつしば学園小学校 初芝立命館中高等学校 校.本部分含む
	校舎	30,819	3,897,708	2,284,911	
富田林市彼方 (初芝富田林中高)	校地	57,526	1,335,086	1,335,086	
		8,463	—	—	
	校舎	11,845	3,069,401	1,413,630	
橋本市小峰台 (初芝橋本中高)	校地	39,053	1,258,000	1,258,000	寮敷地 (714㎡) 含む
	校舎	12,006	2,925,572	1,178,282	
	寮建物	2,093	544,374	261,482	
三重県南伊勢町	土地	92,929	1,711	1,711	未利用

※校舎には、建物付属設備及び構築物を含む。

### 3 財務の概要

#### (1) 計算書類

#### 資金収支計算

2019年4月1日から

2020年3月31日まで

単位：円

	a. 2019年度 第3回補正予算	b. 2019年度 決 算	差 異 (a-b)
資金収入	6,884,015,770	7,152,348,222	△268,332,452
前年度繰越支払資金	1,664,114,920	1,664,114,920	
収入の部合計	8,548,130,690	8,816,463,142	
資金支出	6,628,433,203	6,894,196,802	△265,753,599
翌年度繰越支払資金	1,919,697,487	1,922,266,340	△2,568,853
支出の部合計	8,548,130,690	8,816,463,142	△268,332,452

#### 事業活動収支計算

2019年4月1日から

2020年3月31日まで

単位：円

		a. 2019年度 第3回補正予算額	b. 2019年度 決 算	差 異 (a-b)
教育活動収支	事業活動収入の部	4,117,181,426	4,122,369,278	△5,187,852
	事業活動支出の部	4,046,078,981	3,921,643,014	124,435,967
	収支差額	71,102,445	200,726,264	△129,623,819
教育活動外収支	事業活動収入の部	7,211,102	7,046,130	164,973
	事業活動支出の部	4,837,562	4,837,562	0
	収支差額	2,373,540	2,208,568	164,972
経常収支差額		73,475,985	202,934,832	△129,458,847
特別収支	事業活動収入の部	7,070,000	39,654,795	△32,584,795
	事業活動支出の部	0	6,222,828	△6,222,828
	収支差額	7,070,000	33,431,967	△26,361,967
[予備費]		21,516,000		21,516,000
基本金組入前当年度収支差額		59,029,385	236,366,799	△177,337,414
基本金組入額合計		△388,963,960	△308,457,484	△80,506,476
当年度収支差額		△329,934,575	△72,090,685	△257,843,890
前年度繰越収支差額		△4,336,144,270	△4,336,144,270	0
翌年度繰越収支差額		△4,666,078,845	△4,408,234,955	△257,843,890

## 貸借対照表

2020年3月31日

単位：円

	a. 本年度末	b. 前年度末	増 減 (a-b)
資産の部			
固定資産	13,330,637,606	13,422,918,084	△92,280,478
流動資産	2,263,586,069	2,023,551,778	240,034,291
合 計	15,594,223,675	15,446,469,862	147,753,813
負債の部			
固定負債	593,477,228	731,333,333	△137,856,105
流動負債	883,516,731	834,273,612	49,243,119
合 計	1,476,993,959	1,565,606,945	△89,612,986
純資産の部			
基本金	18,525,464,671	18,217,007,187	308,457,484
繰越収支差額	△4,408,234,955	△4,336,144,270	△72,090,685
合 計	14,117,229,716	13,880,862,917	236,366,799
負債及び純資産の部			
合 計	15,594,223,675	15,446,469,862	147,753,813

### (2) 主な財務比率比較

単位：%

比率名	算式	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
事業活動収支 差額比率 (△)	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	11.4	11.6	10.5	8.1	5.7
基本金組入後 収支比率 (▼)	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組額}}$	92.8	96.9	93.7	99.9	101.9
学生生徒等 納付金比率 (～)	$\frac{\text{学生生徒納付金}}{\text{経常収入}}$	50.3	50.9	50.9	51.2	50.4
人件費比率 (▼)	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	61.8	62.6	62.3	62.5	61.4
教育研究経費 比率 (△)	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	14.6	15.3	14.5	16.0	18.2
管理経費比率 (▼)	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	12.6	12.8	12.9	13.8	15.3

	経常収入					
流動比率 (△)	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	174.6	169.3	198.0	242.6	256.2
負債比率 (▼)	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	18.0	15.7	13.1	11.3	10.5
純資産構成 比率 (△)	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債+純資産}}$	84.7	86.5	88.5	89.9	90.5
基本金比率 (△)	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	95.9	96.8	97.6	98.4	99.2

■ 比率名の（ ）内の記号は、評価を表している（「今日の私学財政」（日本私立学校振興・共済事業団）による）

（△）：高い値が良い （▼）：低い値が良い （～）：どちらともいえない

(3) その他

①有価証券の状況

区分	銘柄	数量	B/S 価額	時 価	計上科目
株式	王子ホールディングス他	89,110 株	61,227,092 円	94,686,698 円	有価証券
合計		89,110 株	61,227,092 円	94,686,698 円	

②借入金の状況

単位：千円

借入先	借入残高	利率 %	返済期限	担保等
日本私学振興・共済事業団	144,440	1.7	2021年3月	土地・建物
合計	144,440			

③学校債の状況

発行年度	本年度末残高	利息	償還期限	摘 要
2018年度	57,800,000 円	—%	2021年3月	
2019年度	56,000,000 円	—%	2022年3月	
2020年度	53,200,000 円	—%	2023年3月	
合 計	167,00,000 円			

④寄付金の状況

寄付金の種類	寄 附 者	金 額	摘 要
特別寄付金	各校保護者会等	64,785,995 円	
一般寄付金	各校保護者会等	15,312,000 円	
現物寄付金	各校保護者会等	11,966,572 円	

⑤ 主な補助金の状況

補助金の内訳	金 額	摘 要
国庫補助金	7,143,000 円	ICT 教育設備設置事業、理振
大阪府経常費補助金	956,144,000 円	
大阪府授業料支援補助金	459,721,579 円	
大阪府修学支援実証補助金	4,000,000 円	
和歌山県経常費補助金	180,246,000 円	
和歌山県減額補助金	2,128,500 円	
和歌山県就学支援実証補助金	400,000 円	
大阪府その他の補助金	6,548,600 円	教育振興補助金等
市町村他補助金	695,258 円	堺市、橋本市他

## ⑥収益事業の状況

スイミングスクール（サービス業）の状況は次のとおりである。

### 損益計算書

単位：千円

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
売上高	98,900	97,835	100,897	103,352	95,414
売上原価	1,656	1,868	2,339	2,212	2,413
販売管理費	77,688	84,663	90,474	88,247	88,211
当期純損益	19,555	11,304	8,084	12,892	4,789

※ 千円未満の端数処理の関係で内訳の計が合計と一致しないことがある。

### 貸借対照表

単位：千円

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
流動資産	113,114	195,839	179,942	194,592	119,555
固定資産	31,314	27,951	24,297	24,205	21,622
資産合計	144,428	223,790	204,239	218,797	141,178
流動負債	9,535	8,208	11,312	9,903	9,505
固定負債	7,696	8,605	9,559	9,745	9,909
負債合計	17,232	16,814	20,871	19,648	19,415
純資産合計	127,963	206,976	183,367	199,148	121,762
負債・純資産合計	144,428	223,790	204,239	218,797	141,178

※ 千円未満の端数処理の関係で内訳の計が合計と一致しないことがある。